

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
B102	哲学・倫理学概論	1年	講義	2	渡邊昇
授業概要 学生が身につけるべき基本的かつ普遍的な知識を踏まえて、心の豊かさや命の大切さを哲学・倫理学概論で取り上げて考察する。幅広いものの考え方や常識を疑ってみるなか、新しい自己の存在を確認させることで、生きる意欲や社会集団の一員として律することの大切さを学ぶ。					
到達目標(学習の成果) 先人達の考え方を学び理解を深める。現代の社会を多面的に見つめながら、課題に対して考える能力や解決する判断力を養う。また、自分の日常生活や社会生活に活かしていく能力と態度を身につける。(DP1)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	自己紹介と哲学・倫理学を学ぶにあたって	自己紹介とガイダンス 生きることの意味を考えよう。「知」にこだわり学んでみる。集団として社会生活を営むなかで、真理を探究する姿勢が学問を発展させたことを学び、本講座での学ぶ意欲と関心を高める。			
2	古代ギリシア哲学(1) ソクラテス中心	古代ギリシア哲学は、万物の根源の探究から考えられた。ソクラテス以前とソクラテスの考え方の違いを学び理解を深める。「無知の知」の自覚やより善く生きるとは何かなどを考察する。			
3	古代ギリシア哲学(2) プラトン アリストテレス	ソクラテスの考えを発展させたプラトンやアリストテレスの考え方に触れ、哲学の世界の広がりや面白さを通して多面的考え方を学ぶ。			
4	ユダヤ教とキリスト教の成立	キリストの誕生からやがてキリスト教はローマに伝わり、国教になった背景とキリスト教団の組織を支え、「教父哲学」の基礎を築いたアウグスティヌスにみる布教活動の原点を考察する。			
5	キリスト教と中世哲学	中世キリスト教思想は、「スコラ哲学」といい、普遍論争といわれた神の存在をめぐる展開する。また、同時代に壮大な世界観を構築したトマス・アクィナスの論理を考察する。			
6	近代哲学の幕開け 大陸合理論とイギリス経験論	ルネサンスと宗教改革は、「神から人間へ」大きく世界観を変えた。イギリス経験論と大陸合理論を軸に、考え方の相違を考察する。また、社会契約論を学び、社会のあり方は人間がつくったルールで成り立っていることを学び理解を深める。			
7	近代哲学の発展 カントのドイツ観念論	イギリス経験論と大陸合理論を総合的に統合したカントの問題意識とは何か。コペルニクス的転回や認識論・道徳論を学び、カントの生き方や人間的魅力にもふれる。ヘーゲルにいたって大成したドイツ観念論の考え方をカント中心に学び理解を深める。			
8	進化する現代哲学 キルケゴールの実存主義	実存主義とは何かについて、キルケゴールの考え方を学びながら、実存の三契機を理解し、単独者としての生き方を考察する。人間のかけがえのないあり方を学び、自己を見つめる意義を学ぶ。			
9	東洋哲学とは何か (ここでは概略としての考え方中心)	インド・イスラム・中国・日本に展開された考え方を東洋哲学として扱う。特色としては、それぞれの地域で宗教と密接な関係があり、解釈をめぐって哲学が展開されたことを考察する。			
10	インド思想と仏教 バラモン教と 仏教	世界最古のインド思想成立の背景と内容を学ぶと共に、厳しい自然環境を生き抜く知恵として生まれたこと。カースト制度とはどのようなものか。輪廻転生の思想、梵我一如とは何か。現世の苦しみからの脱却は、宗教とともに発達した。仏教成立の背景とその意味を理解する。			

11	中国の思想 儒学思想を中心	儒家の思想からみる道德と法則の根源を学び、老荘思想にもふれる。朱子学の理気二元論や陽明学の理一言論を考察する。また、「論語」を読むことにより、人としてのあり方にも理解を深める。
12	日本の哲学(1) (古代より江戸時代まで)	古代日本の思想として、今日まで受け継がれてきた考え方を時代的に考察する。神々の時代に仏教が伝来し、発展するなかで豊かな哲学が生まれたことを学び理解を深める。
13	日本の哲学(2) (明治以降から現代まで)	日本啓蒙思想の担い手たちとして、明六社メンバーより福沢諭吉を中心に考察する。まち、西田幾多郎や和辻哲郎による日本の現代哲学はどう構築されたかを学び理解を深める。
14	現代社会を哲学する (現代社会の特質)	現代社会の特質と諸課題をテーマに、大衆社会としてリースマンの「孤独の群衆」から特色を学ぶ。管理社会や情報社会といわれる現代社会を考察する。
15	現代における 哲学・倫理学の意義	科学の発達は、現代では生命をも操作している。その判断と決定権を握るのも私たちである。生命倫理(バイオエシックス)の問題を考察する。

準備学修(授業外の自己学修)

- ・授業の終わりに次回への課題が出ます。事前に準備し、スムーズに学習できるための準備をすること。
- ・授業に遅刻や早退しないこと。また、中抜けもしないこと。20分以上の遅刻は欠席と見なします。

成績評価の方法・基準(%表記)

単位認定には全講義回数数の3分の2以上の出席が必要。成績に関しては、期末テスト70%・レポート20%・授業中の態度および出席率10%により評価する。

観点	S	A	B	C
先人達の考え方を学び理解を深め、心の豊かさや命の大切さを哲学・倫理学概論で取り上げて考察する	完全に(理解できている等)	ほぼ完全に(理解できている等)	十分に(理解できている等)	一定程度(理解できている等)
現代の社会を多面的に見つめながら、今日の課題に対して考える能力や解決する判断力を養う。	完全に(理解できている等)	ほぼ完全に(理解できている等)	十分に(理解できている等)	一定程度(理解できている等)
自分の日常生活や社会生活に活かしていく能力と態度を身につける。	完全に(理解できている等)	ほぼ完全に(理解できている等)	十分に(理解できている等)	一定程度(理解できている等)

教科書

使用しない 私製のプリント使用

参考書等

「哲学入門」ちくま学芸文庫 バートランド・ラッセル(高村夏輝=訳)
「概説西洋哲学史」ミルヴァ書房 峰島旭雄著
「手にとるように哲学がわかる本」かんき出版 甲田 烈著

履修上の注意・学修支援

受講態度を重視する。
何かわからないことがあったら、授業終了後に相談すること。